

**理事会企画
シンポジウムテーマ一覧**

No	23回総会 理事会企画 シンポジウムテーマ	シンポジウム概要
1	学会公式和文誌「再生医療」と英文誌「Regenerative Therapy」の魅力と展望	2001年に創刊された学会公式和文誌「再生医療」は、再生医療分野で全員が知っておくべきテーマ、最先端の内容について、研究、企業、規制の現状をわかりやすく把握できるREVIEWやCommentary、国内外研究、再生医療企業、および最新研究成果に関する情報をリアルタイムでお知らせしています。バイオエンジニアリング（医工学、組織工学）、ライフサイエンス、メディカルに興味ある方なら誰でもワクワクして手に取って読みたくなる教科書のような雑誌を目指しています。2015年創刊された学会公式英文誌「Regenerative Therapy」は、tissue engineering, stem cell & regenerative biology, industrial development, clinical application, ELSI (ethics, legal and societal issues)など再生医療にかかわる様々な分野（基礎科学、臨床、工学、倫理、法律、社会）の研究成果や情報発信の場として機能をはたしています。今後、これらの機関紙の魅力と、当該学問分野の発展に貢献していくためにはどのような方針で何をなすべきなのか、将来展望について述べ、議論します。
2	日本移植学会とのジョイントシンポジウム「日本移植学会ジョイント」	再生医療の最終目標である移植臓器の作製には、移植医療を展開している外科医、内科医等との連携が重要である。各臓器の特性と患者治療のためのニーズを情報共有し、再生医療の実用化に資する必要がある。また臓器移植での免疫抑制療法、免疫寛容誘導などの知見は再生医療実用化にも応用できる。本セッションでは臓器移植に取り組みられている先生方で再生医療の将来像もイメージできる各領域の方々にご講演いただき、今後の再生医療像を議論して頂きたい。
3	再生医学と再生獣医学の接点	再生医療の獣医領域への応用は、まだ始まったばかりであり、今後の発展が期待できるのみならず、実臨床でのエビデンス蓄積に非常に有効であり、医学と獣医学の連携は非常に重要である。医学、獣医学の両方の観点から、すでに実施している共同研究などを踏まえて、現状や展望を共有する。
4	日本輸血細胞治療学会合同シンポジウム「再生医療認定施設制度の役割」	日本再生医療学会は、再生医療等を実施する医療機関または細胞培養加工施設が適切に運用管理され、かつ再生医療等の提供を行うための人材、資源等を兼ね備えている機関を認定することにより、安全で有効な再生医療等の提供と社会実装を促進する。そのために認定施設制度を発足した。本合同シンポジウムでは、院内における細胞加工製品や細胞加工物の取り扱い等について両学会の立場から議論を深め、本認定施設制度の意義を周知したい。
5	運動器の再生医療の現状と展望	超高齢化社会を迎えた日本において、老後も健やかで心豊かな生活を送るために、運動器の障害は克服すべき大きな課題です。中でも再生医療は、健康寿命延伸の観点から注目されており、基礎研究から創出された優れたシーズが、既に臨床の現場へ届き始めています。本シンポジウムでは、運動器再生分野において日本を代表する研究者達より、最先端の内容と未来に向けた課題についてご発表いただきます。
6	細胞培養加工施設管理士認定制度が目指すもの～施設運用の質的向上への取組	細胞培養加工施設管理士（施設管理士）は、安全で有効な再生医療等を提供するために細胞加工施設を適切に運営できる能力を有さなければならない。本企画は、施設管理士が課題を共有し共通のテーマについて議論することにより、理解を深め知識の向上を図ることを目的とする。同時に施設管理士を目指す会員が学べる場とする。なお本企画は紀ノ岡理事のご提案をもとに立案した。また施設管理士更新の一要件の位置づけとする。
7	再生医療の産官学連携の未来について～「死の谷」を超え「ダーウィンの海」を渡る～	再生医療等製品開発においていくつかのシーズは臨床研究や治験段階に至った。この先、上市さらには治療薬として日本の医療制度の中で成功するためには、まだまだ解決すべき課題は多い。今回、再生医療を実用化するための関連省庁や、企業、研究者の取り組みを紹介し、意見交換することで、産官学の連携を推進し、再生医療普及のための様々な制度の在り方を議論する。
8	遺伝子治療と再生医療の開発・最前線	本シンポジウムでは、「遺伝子治療と再生医療の開発・最前線」というテーマのもと、専門家が最新の研究成果や応用について発表・議論します。具体的には、ex vivo遺伝子治療を用いた脊髄損傷や脳腫瘍、CAR-T療法を用いたがん治療、in vivo遺伝子治療を用いた免疫寛容遺伝子治療、そして脊髄性筋萎縮症を対象としたウイルスベクター-遺伝子補充療法製品「ゾルゲンスマ」の開発についての話題を取り上げます。本シンポジウムを通じて、再生医療の最新動向について広く情報を提供し、更なる発展を目指します。
9	細胞製造の安定化に向けた最新技術	再生医療技術産業の発展には、再生医療のみならず、移植材であり、製品である細胞加工物の品質が安定し、供給し続けることが不可欠である。本シンポジウムでは、製品品質の安定に資する細胞製造工程の安定化技術に着目し、最新の技術開発の取り組みについて紹介する。
10	再生医療共創分野の新展開	再生医療は異分野との共創で発展してきた。今後も異分野からの技術導入、異分野への技術移転を常に模索して行くことがその発展に必要である。近年、再生医療分野と共創のはじまっている複数の分野の専門家にご登壇いただき、本学会会員の異分野との共創マインドを涵養する。

理事会企画
シンポジウムテーマ一覧

No	23回総会 理事会企画 シンポジウムテーマ	シンポジウム概要
11	歯科再生医療推進ネットワーク協議会主催： 歯科再生医療を推進する基礎研究の進展	歯科再生医療は、顎骨再生、歯や歯周組織の再生、バイオインプラント、唾液腺や味蕾の再生等がターゲットとなる。最近の歯科再生医療を推進する基礎研究で、大きな成果をあげている第一線の研究者にご登壇頂き、歯科再生医療に繋がる基礎研究をご紹介頂き、歯科再生医療の展望を議論したい。
12	ティッシュエンジニアリング技術を活用した再生医療 の実際	ティッシュエンジニアリングとは、細胞の周辺環境を作り与え、細胞の増殖分化の能力を引き出し、組織の再生修復を誘導する再生医療技術である。本シンポジウムでは、足場、生理活性因子（タンパク質、DNA、RNA、核酸医薬、低分子化合物）やエクソソームなどの細胞送達、細胞の遺伝子改変、細胞3次元組織化、細胞機能可視化などに関する最新ティッシュエンジニアリング技術とそれらの技術を活用した再生医療の実例について紹介する。
13	新たな神経再生医療を創出する基礎研究	損傷した脳や脊髄を再生させるには、再生の各ステップを正確に理解し、これらの組織に存在する再生阻害機構を考慮した治療戦略が必要となる。神経再生の鍵を握る重要なしくみを解明し、新たな再生医療技術を創出する研究者に、最新の研究をご発表いただく。
14	再生・細胞・遺伝子治療における法的・倫理的・社会的な課題について	実用化ははるか未来と考えられていた再生・細胞・遺伝子治療が臨床で用いられる時代を迎えている。これらの治療は基礎研究と臨床との距離が近く日々知識が更新される「作動中の科学」でもあり、多面的な社会的責任を負う状況にある。本シンポジウムではこうした課題について広い視点から検討し、新しい医療をつくることについて考える。
15	再生医療ナショナルコンソーシアムの構築と未来	再生医療ナショナルコンソーシアムは、2016年から日本再生医療学会が中心として構築してきた仕組みであり、再生医療の普及推進のためのエコシステムとしての役割を果たすために運営されてきたものである。事業開始より8年が経過し、教科書やデータベースをはじめとしたさまざまな成果物が世に出され、コンソーシアムの支援を受けた臨床試験も各種開始されるに至った。今回のこの活動の内容を報告し、今後の未来の在り方について議論を交わすことで、更なるコンソーシアムの発展を期待するところである。
16	免疫細胞療法	免疫細胞療法は再生医療の中で最も開発が盛んな領域の一つであり、新たな基盤技術や製品の開発が進められている。その方向性は、CAR導入以外の遺伝子操作により高機能化を目指すことや、多能性幹細胞を含む様々な細胞を原材料として用いることなど多岐にわたり、奏効率の上昇や固形腫瘍への適用などの達成にむけた取り組みがなされている。本シンポジウムは、免疫細胞療法についての最新の知見を提示し、議論する場とする。
17	再生医療の未来を担う人材の育成	昨今の情勢から、多くの領域において人材育成への関心が高まっている。再生医療領域でも、基礎生物学的研究能力の醸成から実用化をふまえた規制制度、知財戦略、起業家志向など、多様性を持った適切な人材の確保が望まれる。本シンポジウムでは本学会における次世代人材の育成から、これまで実施してきた中高生セッションの総括に至るまで、さまざまな人材育成に関する課題と対応策について考えるきっかけをつくることを目的とする。
18	ダイバーシティ委員会企画： 自分を生かす、私の生き方！	ダイバーシティ委員会企画として様々な分野でDiverseな活躍をしている先生方にそれぞれの生き方、苦労、そして未来について語っていただけます。そして今後の再生学会としてどのようにしたら女性活躍・多様性を生かした組織に発展していけるかについてご意見をいただき皆さんとディスカッションします！
19	ガチ討論第2弾 日本の再生医療の未来を変えるにはどうしたらよいか？	第22回日本再生医療学会学術集會で行った「ガチ討論」企画がとても反響があったため、第23回再生医療学会学術集會でも第2弾を企画しました。第2弾として本音で再生医療を発展させるためにおける課題についてさまざまな観点から議論するという企画を計画しています。「ガチ討論第2弾 日本の再生医療の未来を変えるにはどうしたらよいか？」をテーマに様々な分野の専門家の方々に語っていただき、再生医療の明るい未来のため我々に何ができるかについて「ガチ討論」を行いたいと思います。